

中逸町政『第4章』始動

任期満了に伴う長洲町長選挙は、4月20日に告示され、立候補届出者が、中逸博光氏1人だったため、無投票での当選となりました。

これまでの取り組みを振り返って、これからの4年間、長洲町がどう進んでいくのか。

長洲町のさらなる発展を目指して、中逸町政が幕を開ける。

再選を受けて今の心境は

今回の再選は、これまでの3期12年間の町政運営の実績を評価していただけたと感じるとともに、改めてその重責に身が引き締まる思いであり、町民の皆様には厚くお礼を申し上げます。

私の掲げたこれからのまちづくりのビジョンに対する町民の皆様の期待の現れであると受け止めています。

3期目を振り返って

3期目は元号が平成から令和と改元し、大きな時代の転換を感じた4年間でした。

また、令和2年7月豪雨や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各種イベントの中止や延期などを余儀なくされ、厳しい行政運営ではありましたが、これまで築いてまいりました、「定住・教育・福祉・産業」

各分野の事業が着実に前進したと感じた4年間でもありました。

町の課題とそれを解決するために必要なことは

「定住化の推進」、これが大きな課題であると考えています。日本全国が人口減少社会に突入していますが、この課題解決に向け、令和元年に宮

野地区にレインボーみやのを整備しました。

引き続き、長洲駅南側や出町地区の宅地開発、空き家バンクの活用など、様々な事業を実施し、「定住化の推進」を図ってまいります。

また、現在33カ所ある介護予防拠点施設と高齢者支援施設「げんきの館」を活用し、高齢者が元気でいきいきと過ごせるよう、生涯いつまでも元気に活動できるまちを目指してまいります。

さらに、新型コロナウイルス感染症により地域経済をはじめ、各分野において大きな影響を受けておられます。

長洲町といたしましてもワクチン接種などをはじめとした感染症対策に取り組みとともに、地域経済のV字回復や町民の皆様の生活支援に引き続き取り組んでまいりたいと考えています。

町の発展のために取り組んでいくことは

近年、社会保障費の伸びなどにより、まだまだ厳しい財政運営となることが予測されますが、そのような

中でも、4期目も引き続き、行財政改革を継続し、ずっと住みたい魅力あるまちを目指してまいりたいと考えております。

これらの実現のために、広く住民の皆さんの「声」を聞きながら施策に反映してまいります。

寄せられた信頼と期待に応えるため、皆さんと一緒に、気づきの心をもって、率先垂範の姿勢で、「住みたい・住んでよかったまち」が必ずの実現に全力で取り組んでまいります。



Profile

なかいつ ひろみつ
中逸 博光 町長

1954年8月1日生まれ。明治大学商学部卒業後、78年熊本市役所入庁。08年熊本市役所退職。09年長洲町長に初就任。出町区在住、66歳